

個人行山行／鳥海山（湯の台コース）

【日 程】2014年7月6日

【エリア】山形県

【形態】ハイキング

【メンバー】梅屋

【報告】梅屋



《ルート／タイム》

車道終点 (06:00) ~ (06:15) 滝の小屋 ~ (07:05) 河原小屋 (07:15) ~ (大雪溪・心字雪溪)
 ~ (08:40) 蕪坂 ~ (09:25) 伏拝岳 (09:40) ~ (10:15) 七高山 (鳥海山) (11:00) ~ (11:45)
 伏拝岳 ~ (12:45) 河原小屋 (13:00) ~ (13:50) 滝の小屋 (泊)

≪報告≫

7月06日(晴れ)

■駐車場～河原小屋

○一般的には鳥海山登山のメインルートは、鉾立から登る象潟コースであり、御浜から鳥海湖を経て新山に至るコースであるが、今回は最短時間で登れるという「湯の台コース」を選択したが、鉾立コースの標高差1,109m、湯の台コース1,032mでわずか77mの差でしかなく、時間が短いと云うことはそれだけ、急坂が多いと云うことで、ひたすら登るという行程だった。

酒田の町から登山口に至る間に麓から見上げると標高差2200mは圧倒的で、あの頂に今日中にたどり着けるのかというとても大きな山との第一印象だった。

○駐車場は早朝にもかかわらず先着が約10台ほど、高齢者のグループや単独も多い。登山ポストに届けを投函して、滝の小屋までは15分ほどで到着、小屋は遊佐町営の施設で宿泊も可能、一泊2食で4,500円という安さが魅力で今日は下山後に泊まることとしている。今年は、雨量が極端に少ないことから雪渓が多く残っており、小屋の前から雪渓を上がって八丁坂から河原小屋を目指す。20分ほど上がると広い尾根に出て、高山植物の花々が迎えてくれるが、印象から見れば開花が少し遅れているようだ。

このあたりから日本海が眼前に広がり、はるか月山も遠望できるが、もやっているためカメラでは捉えきれない。八丁坂は景色はいいがひたすら登る、やや傾斜が緩くなって小川に沿って行くと河原小屋に到着。現在は閉鎖されていて避難小屋としては使えないが、水洗トイレが新しく建っており志を投入して利用が出来る。ここから前面には広大な雪渓が広がっており、遙か上部に米粒のような人影が見える。例年の記録と比較してみると圧倒的に雪渓の量が多いようである。

■大雪渓から伏拝岳

○持参した軽アイゼンを付けて雪渓に踏み出す。これから上がる先を見ているだけで果てしなない距離を感じる。ルートは大雪渓は左側、心字雪渓は右側と記されていたが、広大な雪渓が広がっているだけで判断も付かない。好き勝手なルートを選んでひたすら上がるも、途中何箇所か雪渓が割れてクレパス状になっているところもある。約1時間ほど上がった段階で心字雪渓から薊坂へのルートを確認することができた。これは先行パーティーから判断できたが、初見でかつ、ガスっていればルート把握も難しいと感じた。

薊坂は、今回のコースでは最も辛い登りであった。一気に外輪山まで上がるコースで落石にも気をつけなければならず、ひーこら云いながら45分ほどかかって外輪山である伏拝岳に到着。ここは御浜小屋から山頂を目指すコースが合流する地点でもあり、一気に人が増える。いよいよ鳥海山の核心部に到達したという感じで、千蛇谷を隔てて荒々しい新山と山頂小屋が、東側にはこれから向かう七高山がくっきりと臨む事が出来た。

■外輪山から七高山

伏拝岳から外輪尾根をたどって行者岳から七高山へ向かう。いずれも左側はスパッと切れ落ちていて、その先に新山と山頂小屋を眺めながら高山植物も咲き誇るルートを七高山へと向かう。伏拝岳からおよそ35分で、鋭いピークを持つ七高山に到達。実はこの標高は2,229mで鳥海山のピークといわれているが実際には、向かいの新山が2,236mでこちらの方が7m高く、それだけに新山

を踏む登山者も多いといわれているが、今回は七高山で満足することとした（斜面を一気に下りて再び雪渓を新山まで上がり、また外輪山まで登り返す労苦に白旗を揚げたということ）。

七高山で休憩していると、多くのルートから上がってくる登山者が見える。矢島口ルート、百宅口ルートなど、はるか下方から直接ピークに上がって来ているようで鳥海山の多様性も確認することが出来た。

帰路は、同じルートを下山することとしたが、午後になってガスって来たため、雪渓上でどの方向に下っているのか判断しづらい場面もあったように、全体的に登山道の表示がほとんどなく、ルートの判断が分かりづらい印象であった。



河原小屋から大雪渓、心字雪渓



大雪渓、心字雪渓



伏拝岳から新山、七高山を望む



七高山のピーク